

CONTENTS

- ① 10年間の院内診療ネットワークを基盤に「神経線維腫症1型」診療の向上を目指します。
 - ・新年のご挨拶
 - ・病院からのお知らせ
 - ・ナディック通信
 - ・特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力をお願い
 - ・かわらばん HPのご案内
- ② 新任のご挨拶
 - ・健康講座「手根管症候群について」

名古屋大学医学部附属病院

理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

基本方針 ● 1. 安全かつ高度な医療を提供します。 2. 優れた医療人を養成します。
3. 次代を担う新しい医療を開拓します。 4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市長和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111 (代表)

<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーがご覧いただけます



TOPICS ① 10年間の院内診療ネットワークを基盤に「神経線維腫症1型」診療の向上を目指します。

2024年3月、名大病院に設立された「神経線維腫症総合医療センター」。設立の経緯や現在の取り組み、今後の展望について、センターを牽引する皆さんに伺いました。



▲(左から) 城所博之 副センター長、西田佳弘 センター長、森川真紀 認定遺伝カウンセラー

人によって異なる多様な症状に寄り添って

現在、センターでは患者さんが来院されると、小児科、整形外科、眼科、年齢や症状によっては脳神経外科などでも診療を行い、多科で症状に合わせた治療を

行っています。また、患者さん・ご家族向けの市民公開講座を開催し、正確な情報を広く発信したいとも考えています。NF1に関し、残念ながらSNSなどで誤情報が発信されているケースもあり、ぜひ正しい情報のもとに理解を深めていただきたいと願っています。今後も本センターは、NF1患者さんやご家族の拠りどころとして活動を進めていきます。

日本で初めて多科多職種による診療を開始

神経線維腫症1型(NF1、レックリングハウゼン病)は、出生3000人に1人の割合で発症する遺伝性の指定難病です。生後1年以内にカフェ・オ・レ斑という色素斑が現れるのが特徴で、皮膚や神経に生じる神経線維腫に加えて、腫瘍、骨や視神経の疾患、学習面での苦しさ、高血圧など、その症状は人によって多岐にわたります。そのため各診療科の連携が重要となりますが、日本では診療体制が十分に整っていないことが課題でした。



そこで当院では2014年、小児科、整形外科、形成外科、皮膚科、眼科、精神科などの診療科が連携し、認定遺伝カウンセラーを含む多科多職種による院内診療ネットワークを発足させ、日本で初めてNF1への総合的なアプローチを開始しました。そして2024年、ネットワークの活動を基盤に「神経線維腫症総合医療センター」を設立しました。

全国にネットワークを広げ、地域との連携も強化

NF1に関する国内の学会では、NF1患者さんが日本のどこでも質の高い診療を受けられるよう、本センターをモデルに全国20以上の承認医療施設のネットワーク化を目指しています。さらに本センターでは、今後周辺地域との連携を強化し、承認施設以外の地域の医療機関でも患者さんを診ていただけるように、センターで培った経験やノウハウの提供を進め、新薬の適切な利用を含む啓発活動にも取り組んでいきます。加えて、先行する海外の事例や情報を取り入れ、国際標準の治療を提供することも目標としています。

また、患者さん・ご家族向けの市民公開講座を開催し、正確な情報を広く発信したいとも考えています。NF1に関し、残念ながらSNSなどで誤情報が発信されているケースもあり、ぜひ正しい情報のもとに理解を深めていただきたいと願っています。今後も本センターは、NF1患者さんやご家族の拠りどころとして活動を進めていきます。

新年のご挨拶



病院長 丸山 彰一

新年、明けましておめでとうございます。

名大病院は、コロナ禍を乗り越え、当院の高い医療技術を活かして、難治性疾患に対応する「最後の砦」としての役割を徐々に取り戻しております。さらに、「新しい医療の開拓」という使命も担い、他の病院にはない役割を果たすことが期待されています。現在、多くの患者さんにご来院いただいているため、初診外来や一部の検査、入院、手術において、待ち時間が発生しており、皆様にはご不便をおかけしておりますが、全職員が誠心誠意対応しておりますので、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

本年は、救命救急医療の推進、大規模病床再編による受け入れ患者の拡大、運営効率化による手術件数の増加、病診連携の強化といった改革を進め、さらに信頼される病院を目指して邁進いたします。最後に、皆様にとって実り多き一年となることを、心よりお祈り申し上げます。



事務部長 藤江 進

新年、明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、物価上昇やCovid19の影響による診療機能低下等により全国的に病院経営は非常に厳しい状況にあります。当院においても医師、スタッフの努力による手術件数の増加や上向きの病床稼働率によりかなり改善されてはいるものの厳しい運営が続いております。

その状況下で、昨年は日本の国立大学病院で唯一となる医療施設の国際認証評価機関(JCI)による認証更新を果たし、今月からは電子カルテのシステム入れ替えによるIT機能も強化されました。今後はコンビニ契約をはじめとした患者サービス機能も大幅に見直す計画です。

我々診療支援部門も医療を下支えすべく更なる増収方策と効率化により病院機能の維持向上に取り組んでまいります。皆様にはご不便をおかけすることもあるかと存じますが、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



看護部長 藤井 晃子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

本年は乙巳(きのと・み)年です。努力を重ね、物事を安定させていく年、と言われる一方で、脱皮をするへびの習性から、変化や成長の象徴ともされ、人生の新たなステージへの移行を意味するともいわれているようです。

名大病院も本年は大きな変化のある年となりそうです。入院病棟再編をおこない、現在の病院機能をさらに充実、拡大してまいります。このような大きな変化がありましても、国際的な医療施設評価認証機関JCI(Joint Commission International)に認証され2度の更新を受けている日本の国立大学病院で唯一の病院として、さらなる質の高い看護実践と医療安全の向上に努めてまいります。

すべての皆さまにとりまして、本年が素晴らしい年となりますよう祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

新任のご挨拶

麻酔科長／教授 秋山 浩一

令和6年10月1日付で麻酔科長／教授を拝命いたしました秋山浩一と申します。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

麻酔科は周術期における全身管理・疼痛管理を行う科で、患者さんの安全を第一に考えながら、術前計画から術後の集中治療管理までその役割は多岐にわたります。主には各外科系医師とコミュニケーションを取りながら、手術時の麻酔・全身管理を行い、重症の患者さんの場合は術後の集中治療室での全身管理に携わります。また、慢性疼痛の患者さんにはペインクリニックでの外来診療とブロック治療などの治療も行っております。手術時のさまざまな相談や痛みの相談など、お気軽にお話しいただければと思います。よろしくお願ひ申し上げます。



談など、お気軽にお話しいただければと思います。よろしくお願ひ申し上げます。

形成外科長／教授 橋川 和信

この度、令和6年10月1日付で形成外科長／教授を拝命いたしました橋川和信と申します。

形成外科は、身体組織の変形や欠損を様々な手法によって治療する外科系診療科です。機能だけでなく見た目もより正常に回復させることで、患者さんの生活の質—Quality of Life—を向上させることを目指しています。先天性疾患や外傷、腫瘍など幅広い疾患を対象としていて、子どもからお年寄りまであらゆる世代の患者さんを診療いたします。身体の変形や欠損で生じた問題でお困りの際はご相談ください。



この度、令和6年10月1日付で形成外科長／教授を拝命いたしました橋川和信と申します。

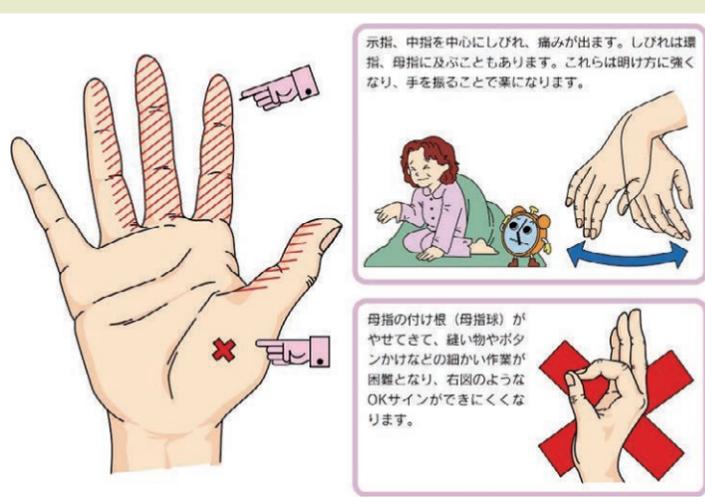
手の外科 助教 徳武 克浩

しゅこんかん 手根管症候群について



手根管症候群は、手のしびれや痛みを引き起こす病気で、生涯で約10%の人が発症するといわれる頻度の高い病気です。特に妊娠・出産期や更年期の女性、50代前半や75～84歳の年齢層に多く見られ、また、手の酷使や骨折、透析などが原因となることもあります。この病気は、手首の内側にある「手根管」というトンネルで正中神経が圧迫されることにより生じ、ホルモンの乱れによるむくみも関与しているとされています。主な症状は、親指から薬指の半分までのしびれや痛みで、特に朝方に強く現れることが多いです。手をふったり指を動かしたりすることで症状が和らぐこともありますが、悪化すると母指球（親指の付け根）がやせてしまい、細かい作業が難しくなることがあります。診断には、手首を叩いたときや手首を直角に曲げて1分間保持したときの反応をみたり、母指球の筋力低下を評価したりします。補助検査としては、電気生理学的検査やエコー、MRIなどが使われます。治療法としては、注射や夜間用の装具療法があり、装具は夜間の症状軽減に効果的です。進行した症例や運動まひがある場合は、手根管開放手術が行われます。症状が現れた場合は早めに専門医に相談し、進行を防ぐことが大切です。

▶日本手外科学会パンフレット「手外科シリーズ」手根管症候群より引用



病院からのお知らせ

提案書からの改善報告

当院では、患者さんが利用する設備や機器などについて、日々の点検や定期的な更新を行っています。加えて、患者さんへのサービス・アメニティー等の満足度向上を目指し、患者満足度委員会において、院内に設置してある提案箱へ投函された提案書のご意見から、サービス改善策を検討し実施しています。

提案書は、回収次第、現場で対応を進めるとともに、その後開催される委員会にて1件ずつ検討することで、院内のサービス向上に努めています。

サービス改善における主な対応については、外来棟1階中央待合ホールに設置されているモニターへ掲示しております。

〈2024年度上半期 改善実施事例〉

「入退院受付」の名称変更とその周知について

2023年11月より受付窓口での退院手続きが不要となり、実際の業務と名称が異なり分かりにくいというご意見から「入退院受付」を「入院受付」に名称変更し、案内看板など院内表示でもできるだけ分かりやすく周知を行いました。



▲案内看板での周知例

Nagoya Disease Information Center ナディック通信

ナディックからのお知らせ

患者情報センター（広場ナディック）では患者さん自身が医療に関する情報収集ができるよう、一般的な医学書やパンフレットの閲覧、DVDの視聴等ができます。

がん患者さん向けの「ウィッグ・頭皮ケア相談」については外来棟1階「地域連携・患者相談センター」にてがん相談員が随時対応しております。

肝臓病教室についても引き続きオンライン（名大病院公式YouTubeチャンネル）で視聴可能となっており、現在は「肝疾患の栄養状態について」が公開されていますので、是非ご覧ください。

〈利用可能日〉入院患者さん：月・水・金曜日
外来患者さん：火・木曜日
〈利用時間〉平日10時～13時
（休日祝日年末年始を除く）

（問い合わせ先 地域連携・患者相談センター 052-744-2663）



名大病院公式 YouTube チャンネル

特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力のお願い

当院では本事業を通じて、診療環境の充実、患者さんへのサービスのさらなる向上、先進的な臨床研究の推進を進めてまいります。皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳細は、ホームページまたは外来棟1階に置かれているパンフレットをご覧ください。

URL：https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kikin/hosp-kikin/

QRコードでもアクセスできます！



禁煙のお願い

患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施しています。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

